

巻頭言

スポーツ情報センター長

和田智仁

平成10年12月に鹿屋体育大学にスポーツ情報センターが設置され、早くも11年が経過しました。センターの設置前後から今日までの十数年は、情報通信技術(ICT)が著しい飛躍を遂げた期間と一致しているようです。中央に据え置かれた大型コンピュータから個人が所有するPCへ、学内限定の集中型ネットワークから分散型のインターネットへと、ICTの利用方法は大きく変化しました。現在では、大学の研究・教育をはじめとするあらゆる活動にICTが欠かせないものとなっており、これは人間の身体活動を対象とするスポーツの領域においても例外ではありません。このような状況の中で、スポーツ情報センターの負う役割は、設立以降もその重要性がさらに高まってきていると考えています。

スポーツ情報センターでは、平成14年1月にそれまでに個別に大学に導入されていたコンピュータやネットワークなどの情報機器を一新する「スポーツ情報センターシステム」を導入しました。このシステムは各種のサーバやネットワーク機器をはじめ、教育用コンピュータ、映像制作システム、ビデオデータベース、さらには光学式のモーションキャプチャなどから構成され、大学の基幹となるメール/Web等のサービスから情報教育、さらには最新のスポーツ科学研究支援までを対象とした意欲的なものでした。その後、平成19年3月には現行システムとなる第2期センターシステムを導入しています。第2期のセンターシステムにおいても、第1期と同様に、基幹サービスからネットワークと情報教育設備に加え、モーションキャプチャ、視線計測装置、高速度カメラなどのスポーツ科学研究のためのシステムを導入しています。そして早くも現在では、平成24年3月に導入予定の第3期スポーツ情報センターシステムの検討をはじめようとしています。次期センターシステムも、大学の情報処理機能の中枢を今後5年間担う、大変重要なシステムとなります。

そこで、今年より新たに発行することとなったこの『広報』では、まずセンターの原点に立ち戻ってみることとしました。ここで、センター設立までのあゆみを振り返るとともに、設立に関わられた方々の思いと、そこに込められた期待とを再度確認してみたいと考えました。いささか他力本願の感も否めませんが、次期システムを含めた、今後のセンターのあり方が見えてくるのではないのでしょうか。

最後となってしまいました。平成21年4月から前任の萩裕美子先生にかわりセンター長を拝命いたしましたので、ここにご報告いたします。

前々任の志村正子先生の時代から、長い間センター長を盾がわりにして、思いのままに活動させていただいていたところですが、いよいよ責任を負う立場となってしまいました。力の及ばない点多々あるかと存じますが、頂いたせっかくの機会です。センターの発展のため一層努力していきたいと考えております。今後とも、皆様のセンターへのご支援をお願いいたします。